

役員・理事研修会

深谷市八基（やつもと）公民館にて9月8日（日）10：30より「渋沢栄一 と ふるさと・深谷」をテーマに、元深谷市八基公民館長 澤出 晃越氏による講演会及び施設見学が行われました。新一万円札の発行に伴う様々なイベントが催された余韻の残る中での研修会でした。

栄一翁の業績や思想は多くの機会に取り上げられています。多岐にわたる業績に通底することの一つに「常に次の世に何が必要かを考えていた」というお話をいただきました。例えば、情報の流通で大きな役割を担う新聞の発行では、大量の紙が必要となるので製紙工場を設立し、また今後増加する諸外国の要人をもてなす良質な宿泊施設としてホテルを建設したことなどです。精神的基礎として「余が過去の生涯の総ては論語に拠って訓育されてきた」との言葉が紹介され、論語との深い関わりを実感しました。その上で本研修会の中心となる「なぜ深谷に渋沢栄一が誕生したか」という課題に、「地理的要因」「社会的要因」「経済的要因」「個人的資質」の視点から具体的かつ詳細なお話をいただきました。「地理的要因」では、中山道の深谷宿と利根川の中瀬河岸により人、物、情報等の流通の大動脈であったこと、「社会的要因」では幕藩体制の動揺や岡部藩（阿部氏）の安定的支配等が紹介されました。

今回の研修を通して新たな視点から理解を深めると共に、渋沢栄一記念館の見学でさらに身近な栄一翁への興味や関心が高まる機会になりました。

